

NPO法人居場所コム こまじいのうち

- プログラム概要 : 地域の方とのコミュニケーションから居場所コムがどのように役立っているか考察する。
 実習先 : 居場所コム「こまじいのうち」「こまびよのおうち」(東京都文京区)
 実習先情報 : 2013年にオープン。「地域みんなの居場所」として注目されている。
 参加人数 : 2名
 学部学科 : 人間科学部人間科学科
 実習期間 : 令和6年8月14日～9月17日
 本学担当教員 : 武田憲明(教育学科)

○はじめに

NPO法人とは特定非営利活動法人の略で、1998年から活動している。特定非営利活動促進法に基づき不特定かつ多数のものの利益のために活動する団体である。NPO法人居場所コムのこまじいのうちは2013年から運営されている。地域の居場所として日本全国から注目を浴びており、海外からの留学生からも関心を持たれているようだ。新型コロナウイルス流行前はこまじいのうちでのイベントとして、周辺大学の落語研究科による演目や大学生ボランティアによるスマホ教室なども行っていたという。現在落語は行っておらず、スマホ教室のみ大学生ボランティア団体の「御用聞き」が行っている。

○実習内容

・こまじいのうち

火～金曜日に開催されているカフェこまの運営サポート、その他定期的に行われるイベントのお手伝い。主に子ども食堂、シニア食堂、スマホ教室、みんなで体操、ビーズ教室など。

・こまびよのおうち

週に一度午前と午後に分かれて、子どもの見守り。

実習期間には一度パネルシアターも行った。



○提案したこと

20日間の長い実習の中でこまじいのうちの課題は、草むしりなどの体力仕事やスマホ教室の講師として参加する学生ボランティアの不足であると考えた。この課題を解決するために、こまじいのうちの広報のやり方を見直すことを提案した。具体的には、HPやFacebookだけでなく、近年若者が多く利用しているInstagramの開設である。広報のやり方見直しにより、近くの学生や学校に興味を持ってもらう機会が増える。社会福祉を学ぶ絶好の場として、ボランティア兼見学を希望する学生は少なくないと思う。

また、スタッフの方にお話を聞いたところ、スタッフの高齢化による後継者不足も課題となっていることに気づいた。先ほどの広報と併せて、こまじいのうちの活動に興味をもっている方へ声をかけてみるのが改善につながるのではないだろうか。スタッフの方も仰っていたが、地域の居場所といっても人間関係の構築が重要になるので合うか合わないかは参加しないとわからないことが多い。活動内容や時間なども話したうえでスタッフの輪を広げていくと良いのではないかと思う。



○経験したこと

・子ども食堂

新型コロナウイルスの流行により以前とは違ったお弁当配布での開催だった。流行前は子どもやその親たちが集まり、100人ほどがこまじいのうちで一緒に食事を楽しんでいたと聞いた。この子ども食堂という活動に関しては文京区内でも他に数か所で開催されている。しかし、これらの子ども食堂はそれぞれ目的が異なり、不登校支援や貧困支援等を目的として開催されることが多いようだ。こまじいのうちで開催されていた子ども食堂には特徴があり、貧困・不登校関係なく子どもたちが大勢で食卓を囲むことができるよう、親は月に一度夜ご飯を作らずにリラックスして過ごせる場であるということだ。これには子ども食堂に通う子どもに対する偏見をなくし、気兼ねなく利用してもらい、この活動について知ってもらうという狙いがある。コロナ禍は一時中断し、再開後もこまじいのうちに集まって食事をすることがなくなってしまった。現在は事前に申請された分のお弁当を作り配布する形となっている。コロナ前のような子ども食堂がまた開催されるとよいと思う。



・シニア食堂

【メニュー】

鶏むね肉の味噌マヨ焼き ぶり大根
なすとズッキーニの煮びたし しじみのお味噌汁 など

シニア食堂は子ども食堂に対して小規模のため、こまじいのうちに集まって食事をしていた。食べる前にはスタッフの方主催のフレイル予防体操も行い、和気あいあいとした雰囲気だった。食べ終わった後も利用者の方同士でおしゃべりを楽しんでいるようで、地域の居場所としての役割を改めて感じた。



・こまびよのおうち-パネルシアター



週に1度隣接されているこまびよのおうちで活動を行った。3歳未満の子どもたちとその親の交流を目的とされており、利用していたお母さんは近所の保育園や幼稚園の情報共有していたり、幼稚園勤務の経験があるスタッフの方に相談していたりと保護者の不安解消につながる場であるように感じた。まだ幼稚園に通うことができないが、保護者としては1番不安であろう0~3歳の時期にこのようなコミュニティがあるのは安心できるのではないかと思う。定期的にイベントを開催したり、栄養士を呼んだ相談会も行っているそうだ。

実習期間中にはパネルシアターを行った。2人でどのようなお話や手遊びが子どもたちに興味を持ってもらうことができるか考えた。始める際に「はじまるよ はじまるよ」という手遊び歌で視線をこちらに向けてもらい、「シャボン玉飛ばせ」、「まんまるちゃん」、そして最近こまびよのおうちで野菜に触れるイベントを行ったと聞いたので「やさいのうた」の4つをみんなで楽しんだ。やさいのうたの時には立ち上がって野菜を指さすなどしてくれる子が多くとてもうれしかった。様々な要素を考慮して子どもたちの気を引きながらパネルシアターを行う保育士に改めて感服した。

○まとめ

私の地元にはこのような子どもからお年寄りまでの居場所づくりという活動が活発ではない。日本全体に高齢化という問題が広がる中、こまじいのうちのような気軽におしゃべりができる居場所は必要になると感じる事ができた。当初の目的であった年齢を問わない多世代の居場所であるこまじいのうちがどのように地域に役立っているかも考えることができたので有意義な活動であったように思う。今後このような活動が他地域にどのように広がっていくかにも目を向けていきたいと思う。